



令和7年度 屋外タンク実務担当者講習会

事故防止調査研修センター

昭和52年（1977年）の消防法改正により、特定屋外タンク貯蔵所の基準が大幅に整備され、開放点検等が義務付けられ既に半世紀近くが経過しました。この間、地震災害や設備の経年劣化等が要因となり、火災、爆発、流出等の事故が何度となく発生しましたが、その都度、これらの事故を教訓として屋外貯蔵タンクの技術基準が見直され、安全対策等の整備が進められてきました。

また、近年、高度経済成長期に建設された屋外タンク貯蔵所などは老朽化の進行による維持管理のあり方が課題となっており、さらにソフト面では、保安の確保や技術の伝承が重要な課題となっております。

これらの課題を踏まえ、技術基準の重要性と安全を重視した維持管理のあり方に焦点を当て、事例等に基づいた実務的な要素を取り入れ、適切な審査等に関する知識・技術の習得を目的とし、11月28日（金）に屋外タンク実務担当者講習会を開催しました。

今年度は初の試みとして、危険物保安技術協会会議室で講習を行うとともに、オンラインで同時配信を行いました。会場では43名が受講、オンラインでも200名近い受講者が視聴しました。

会場での受講は募集人数が少なかったこともあり、わずか1日半で満席、関心の高さがうかがえました。

オンラインでの受講も、利便性がよい、ライブ配信としたことから臨場感があると、おおむね好評でした。

講義内容については、屋外タンクの基準や申請時のポイント等の理解が深まったと、とても好評で、今後も継続してほしいと嬉しい声が寄せられました。

また、質疑応答は会場での受講者だけでなく、オンライン受講者からはチャットで受付を行ったところ、多くの質問が寄せられ、とても有意義な講習会となりました。

講習後に実施したアンケートでは今後の開催方法についてもご意見をいただきました。この結果を踏まえ、今後もより良い形での開催を目指します。



会場での受講の様子



オンライン配信の様子